

株式会社第六十五銀行 神戸市兵庫戸場町（原書 P140～146）

設立 明治三十一年一月

目的 一般銀行業

資本金 貳百萬円也 払込額百拾萬円也

重役の氏名

取締役 藤田助七

取締役 上村喜平

同 藤井定介

同 乾 新兵衛

同 増田 斜

監査役 鈴木岩次郎（原文ママ。正しくは“岩治郎”）

監査役 宇都宮直七

同 大原與左衛門

沿革 現状

同行（第六十五国立銀行）は元寒天業を営む豪商であった故池田貫兵衛氏を中心として明治三十一年一月に設立したもので、主として兵庫米肥雜穀商の金融機関を目的とした。当時米肥雜穀界は資産信用のある者が比較的少なく、従って経営の重要な交渉を担当する者としては少なくとも敏腕・有能な人物を必要とすることは言うまでもない。

（注）上記の“設立 明治 31 年 1 月”は第六十五国立銀行が「国立銀行営業満期前特別処分法」に基づき私立銀行の「株式会社第六十五銀行」に転換（改称）した時に当たる。なお、第六十五国立銀行の設立は明治 11(1878)年 11 月 15 日である。

（注）「銀行総覧第 32 回/大蔵省銀行局編」によると同行の設立日（鈴木商店が同行の経営に直接関与した日）は明治 30(1897)年 9 月 22 日である。

ところが、同行は最初から適任者を得ることができなかった結果、常に業績に見るべきものが無く大変苦勞し、挽回策として当時横浜正金銀の行員であった関口直徳氏を支配人にして大いに努力したところ次第に業績が良好となり、ようやく^{しゅうび}愁眉を開いたが、間もなく遂に一大整理を断行せざるを得ない状況となり、経営上行き詰まってしまった。

そして、その主な原因は数年来取引している京都市の堺力蔵神戸支店の主任、瓜谷英一氏は同業者中の手腕家と認められ、特に銀行家を^{るうらく}籠絡することについて非常に巧みで、同行（第六十五国立銀行）を横浜正金銀行（神戸支店）の信用状に対する保証人とさせたことである。

ところが、大正元年末に同店（堺力蔵神戸支店）は相場の激変により数十万円の大欠損を生じ、遂に破産したので、保証人であった同行は必然的に横浜正金銀行に対し責任を果さなければならないこととなった。つまり、これが同行整理の主な原因である。

この時同行は鈴木商店に援助を求め、同店（鈴木商店）の主張を容れて整理を断行した。当時同行の資本金 100 万円、払込金 85 万円を資本金 50 万円払込済に減資し、この差額 35 万円および積立金 13 万 4 千 6 百円、滞貨準備金 16 万円並びに前期繰越金 4 万 5 千円によって諸損金 69 万 1 千余円を補填した。

このようにして、同行は清浄で健全な状態となったことにより、直ちに資本金を 200 万円に増加し、従来兵庫部中心であったものを更に神戸部および大阪に支店を設け、鈴木商店によって経営されることとなり、同時に旧重役は引責辞任し現在の重役の就任となり、その後はひたすら堅実主義の下で長期の貸付を避け、主として商業手形の割引および当座貸越を行い、その他の貸付金は時節柄船舶担保約 6 割、不動産担保 1 割 6 分、有価証券商品担保 2 割 4 分くらいで、しかも担保付貸付金は総貸付額の 2 分 5 厘くらいに過ぎず、その他は当座貸越、手形貸付、コール等なので、従って危険の程度は比較のごくわずかと言うべきである。

そして、余裕資金の運用については比較的多額ではないであろうが、有価証券の購入等を避け、大部分はコールもしくは鈴木商店に一時利用を依頼する等の方法で対応し、従って株式の騰落については担保品以外は利害関係はごくわずかである。

それゆえ、同行の現状としては急激な発展は期待できないが、次第に事業の基礎について確実を期し、整理以来毎期 7 朱の配当を持続し、本上半期は 8 朱配当の希望者があるが、当分 7 朱にて益々事業の基礎を強固にさせる方針であると言う。

現在支店は神戸市内多聞通、西柳原、兵庫、南支店、瀧道、神戸支店の 6 ヶ所および大阪支店 1 ヶ所があり、経営の首脳者としては元住友銀行で相当経験を有する取締役上村喜平氏であるが、氏は整理当時鈴木商店側を代表し就任した者であり、経営上のおおよそ全ての方針は鈴木商店の意見によるものであることは言うまでもない。

大正六年上半期決算は左のとおりである。

(単位：円)

資 産 之 部		負 債 之 部	
未払込株金	900,000.00	資本金	2,000,000.00
証書貸付	1,711,220.51	法定準備金	75,000.00
手形貸付	962,029.07	行員退職給与金	3,570.00
当座預金貸越	1,119,181.20	当座預金	4,088,110.77
割引手形	8,575,068.74	特別当座預金	4,151,474.80
荷付為替手形	326,185.08	通知預金	55,000.00
他店へ貸	1,072,361.45	定期預金	4,793,994.23
支払承諾見返	16,142.18	他店より借	1,204,899.42
預ヶ金	94,534.49	支払承諾	16,142.18
露国証券	86,044.32	再割引手形	203,277.98
諸公債証書	386,890.00	未払利息	89,126.69
営業用土地建物什器	109,680.00	未経過割引料	43,750.28
所有不動産	12,534.75	当期純益金	92,140.23
現金在高	1,444,614.79		
合計金	16,816,486.58	合計金	16,816,486.58

利益分配案

金 九萬貳千百四拾円貳拾參錢 当期利益金

内訳

金 貳萬五千円也	法定積立金
同 壹萬円也	本店新築積立金
同 八千五百円也	賞与金
同 參萬八千五百円也	配当金（年七朱）
同 貳千円也	行員退職給与金
同 八千百四拾円貳拾參錢	後期繰越金